独占欲

夢月 那由紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
独占欲

【Ｎコード】
Ｎ３３９０Ｉ

【作者名】
夢月　那由紀

【あらすじ】
彼女を放してしまったのは自分であり、悔やんでも悔やみきれないのだが……――――――それでも叶うなら、もう一度だけ、彼女の…
『愛していました』『Ｈａｐｐｙ　Ｂｉｒｔｈｄａｙ』と同じシリーズです

たまに彼女が非常に愛おしく思うときがあった。
大切にしたいと思いながら、彼女を放したくなくて思いっきり抱き締めた。
「え？　夕（ユウ）、どうかした？」
彼女――――茉莉（まつり）は俺の腕の中でドギマギしたように言った。
「茉莉、キスしていい？」
「えぇっ？　ど、どうしたの急に…」
俺のところからは茉莉の顔が見えなかったが、赤くなっているだろうということが声で分かる。
「駄目？」
「珍しく甘えてるね？」
そうか、俺は茉莉に甘えているのか、と思うと抱き締める力を強めた。力を強めると茉莉に有無を言わさず俺は茉莉の唇に俺のそれを重ねた。
「んっ…」
茉莉の声を聞くともっと茉莉が欲しくなる。放したくない。ずっと一緒にいたいと思う。
「夕…」
「茉莉、ずっと俺と一緒にいてくれ。俺のものでいてくれ」
俺は最近狂っていた。茉莉がいないとどうしようもなく不安になる。
「あたしはずっと、夕といるよ？」
そう言った茉莉が俺から離れていったのは、あれからどのくらいたった後だったか……――――
「茉莉…」
俺はもう一度彼女の名を呼ぶと、名を呼んだそれを彼女の唇に重ねた。

俺から離れてしまわぬように彼女を抱き締めていなかったのは俺自身。悔やんでも悔やみきれないのが現実であり、もう俺の傍に茉莉がいないのもまた事実。

その唇に触れたいと願っても、もうそれは叶わない。だが、触れたいと願っている。

「茉莉……」

何度彼女の名を呼んでみても、彼女にそれは届かず、彼女は到底戻っては来ない。

だけど、もし叶うなら、もう一度だけ、あの柔らかい唇に触れたい……――――――

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3390i/

独占欲

2011年1月14日03時26分発行